

本の万華鏡

『森は生きています 自然と人間』

富山和子著 — 講談社 1981年

日本は国土の七割が森林です。また、その大半が急峻な山で、川は急流です。もし、日本の山が岩山で一本の木も生えていなかったとしたら……降った雨はすぐに流れて海へ注ぎ、地下水はなく、飲み水も作物を育てる水も手に入りません。日本の水が豊かなのは、山に木がたくさん生い茂っているからです。私は宮崎県の山奥の小さな町で生まれ、山道に「水源涵養林」という立て札が立っているのを見て育ちました。「すいげんかんようりん」という言葉の持つ大きな意味を考える前に、その存在を知り、「ふうん、この森が水を作っているんだ」というくらい軽い感想しか持ちませんでした。

大人になり、富山和子さんの書かれた『森は生きています』を読み、水源を涵養することがどれだけ人類に大切な意義深いことなのかを知りました。それは衝撃でした。

今、森林が注目を集めているのは、植物が光合成により二酸化炭素を固定化し、削減するから、という理由が主なようです。しかし、森林の働きはそれだけではありません。土と水を作ること忘れてはなりません。土と水があるからこそ、私たちは豊かな農作物を得ることが出来ます。森を育てることは、土と水と空気を作ることです。森を育てることはたやすいことではなく、植えて切って使って、また植えて切って使って、という循環がなければなりません。が、ときどき「木を切るのはいっさいまかりならん！」という主張を聞くことがあります。でも、森の木は三十年、四十年たつと、もう成長しきって、二酸化炭素の吸収率は低くなります。新しい若い木のほうがほとんど二酸化炭素を吸収します。大人になりきつた大きな木は伐採して建材やガードレールに使っほうがいいではありませんか。ガードレールに使ったり、河川の補修に使ったりすると、金属やコンクリートは百年もつのに、木だと十年しかもたない、という批判もあります。でも、それが木のよさです。巨額の税金を一度に使って百年もつ物を作るより、山を守る人たちに十年ごとに仕事を作るほうが、よほど雇用対策として優れています。

森を作ることは、それを手入れする人もいるということですが、山奥にそいつの仕事が生まれれば、森はもっと手が入り、豊かになります。

豊かな森が豊かな水を生む。このことをもっと多くの人に知ってもらいたい。そのためにも『森は生きています』を多くの人に読んでもらいたいと思います。



推薦者
赤星 たみこ
(あかほし たみこ)

漫画家。1957年宮崎県生まれ。79年講談社「mimi」で漫画家デビュー。現在は、青年誌、総合誌を問わず、あらゆるタイプの漫画で幅広い層に支持されている。映画化、テレビ化された作品も多数。また、「健康」や「エコロジー」についてのエッセイや漫画も多い。主な著書は、『ミネラル豆乳ダイエット』（小学館）、『もったいないぞ』（毎日新聞社）、『もったいない事典』（小学館）ほか。

from editor's room

- 『水資源危機』末石富太郎 日経新書(1978年)
- 『地球の水が危ない』高橋裕 岩波新書(2003年)
- 『水をめぐる人と自然』嘉田由紀子編 有斐閣(2003年)
- 『「水」の安心生活術』中臣昌広 集英社新書(2004年)
- 『ウォーター・ビジネス』中村靖彦 岩波新書(2004年)
- 『雨を活かす ためることから始める』辰濃和男、村瀬誠 岩波アクティブ新書(2004年)
- 『農を守って水を守る 新しい地下水の社会学』柴崎達雄 築地書館(2004年)
- 『森と里と海のつながり』京大フィールド研の挑戦 京都大学フィールド科学教育研究センター編 大伸社(2004年)
- 『森と棚田で考えた 水俣発 山里のエコロジー』沢畑亨 不知火書房(2005年)
- 『環境先進国ドイツの今』松田雅央 学芸出版社(2005年)
- 『水の世界地図』ロビン・クラーク、ジャネット・キング 沖大幹、沖明訳 丸善(2006年)
- 『森は海の恋人』畠山重篤 文春文庫(2006年)
- 『食べ方で地球が変わる フードマイレージと食・農・環境』山下惣一、鈴木宣弘、中田哲也編 創森社(2007年)
- 『水戦争 水資源争奪の最終戦争が始まった』柴田明夫 角川SSC新書(2007年)
- 『水供給 これからの50年』持続可能な水供給システム研究会編 技報堂出版(2007年)
- 『フライブルグのまちづくり』村上敦 学芸出版社(2007年)
- 『water 水(:mizu)』竹村真一 ワールドフォトプレス(2007年)
- 『みずものがたり 水をめぐる7の話』山本良一、Think the Earthプロジェクトダイヤモンド社(2008年)
- 『生活ミニ手帖 すぐできるエコ家事』阿部絢子 集英社be文庫(2008年)
- 『新しい地球学 太陽-地球-生命圏相互作用系の変動学』渡邊誠一郎、安成哲三、松山哲哉 名古屋大学出版会(2008年)
- 『水の未来 世界の川が干上がるとき ある日は人類最大の環境問題』フレッド・ピアス 古草秀子訳 日経BP社(2008年)
- 『平成20年版日本の水資源』国土交通省土地・水資源局水資源部(2008年)

CEL